

〈特集「ヴォイスとその周辺」〉

バスク語のヴォイスとその周辺 Voice and voice-related phenomena in Basque

石塚 政行¹, 吉成 奏慧²
Masayuki Ishizuka, Kanae Yoshinari

1 東京農工大学

Tokyo University of Agriculture and Technology

2 東京外国語大学言語文化学部

School of Language and Culture Studies, Tokyo University of Foreign Studies

要旨: 本稿は、『語学研究所論集』第17号(2012, 東京外国語大学)の特集「ヴォイスとその周辺」におけるアンケート項目に対するバスク語のデータ, その簡単な解説およびコメントを提供する。

Abstract: This document provides Basque language data for the questionnaire from the featured theme “Voice and voice-related phenomena” in the *Journal of the Institute of Language Research* No. 17 (2012, Tokyo University of Foreign Studies), along with brief explanations and comments.

DOI: <https://doi.org/10.15026/0002000376>

キーワード: ヴォイス バスク語

Keywords: Voice, Basque

1. はじめに

本稿のデータは、『語学研究所論集』第17号の特集「ヴォイスとその周辺」の調査項目を, スペインバスク地方ビスカヤ州出身のバスク語標準語(ビスカヤ方言の影響あり)の話者の方(1990年生まれ)にスペイン語から訳していただいたものである。媒介言語としてのスペイン語の文については, 本論集の特集データのスペイン語のものを用いたのでそちらを参照されたい。

2. データおよびコメント

以下, データを調査項目ごとに提示し, コンサルタントおよび石塚のコメントを付す。「C:」から始まるコンサルタントによる注記は, 話者が英語で書いてくださったものを吉成が日本語に訳し, 石塚が適宜編集したものである。「MI:」から始まる注記は石塚のものである。各節冒頭には調査項目の日本語原文を掲げた。バスク語文の日本語訳は, 原文と文意が異なる場合のみ明記した。

なお, 日本語の過去形「食べた, 行った」などは文脈によってバスク語で2種類の訳し方が存在する。今日, 今週, 今月, 今年など, 発話時を中心とする時間幅の出来事は近過去で, それ以前の出来事は遠過去で表現される。このアンケートでは文脈が不十分な場合, 「ついさっきのこと」が「この間のこと」か, コンサルタントが任意に決めて訳した。



本稿の著作権は著者が保持し, クリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンス(CC-BY)下に提供します。
<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deedja>

2.1. 自動詞と他動詞の対立

「(風などで) ドアが開いた」

- (1) *Ate-a ireki da.*
 door-SG[ABS] open.PFV PRS.3[SG]ABS.INTR

「(彼が) ドアを開けた」

- (2) (*Har-k ate-a ireki d-u.*)
 (that(DIST)SG-ERG) door-SG[ABS] open.PFV PRS.3[SG]ABS-TR[3SG.ERG]

「(入り口の) ドアが開けられた」

- (3) a. *Ate-a ireki d-u-te.*
 door-SG[ABS] open.PFV PRS.3[SG]ABS-TR-3PL.ERG
 b. *Ate-a ireki da.*
 door-SG[ABS] open.PFV PRS.3[SG]ABS.INTR

「ドアが壊れた」

- (4) *Ate-a apur-tu da.*
 door-SG[ABS] break-PFV PRS.3[SG]ABS.INTR

C: (3a) は ‘“They” opened the door’ であり, (3b) は「自ずと開いた」の意味.

MI: (1–3) が例となっているように, バスク語では自他同形の動詞が一般的である (de Rijk 2008: 137–138). また, (4) の *apur-tu* 「壊れる」のように, 完了接辞が *-tu* である動詞は必ず自他同形である (de Rijk 2008: 150).

2.2. 自動詞からの使役

「私は (自分の) 弟を立てさせた」

- (5) *Ni-k anai-a zuti-araz-i d-u-t.*
 1SG-ERG brother-SG[ABS] stand.up-CAUS-PFV PRS.3[SG]ABS-TR-1SG.ERG

MI: 使役の接辞 *-araz* が用いられている. *-araz* の語源は不明である. 被使役者 *anaia* 「弟」は絶対格で標示されている. 一般に, 自動詞の使役は単純他動詞となる.

2.3. 他動詞からの使役

「私は (自分の) 弟に歌を歌わせた」

- (6) *Ni-k anai-a-ri abesti bat abes-araz-i d-i-o-t.*
 1SG-ERG brother-SG-DAT song IDEF.SG[ABS] sing-CAUS-PFV PRS.3[SG]ABS-TR.DAT-3SG-1SG.ERG

MI: 使役の接辞-*araz* が用いられている. 被使役者 *anaia* 「弟」は与格で標示されている. 一般に, 単純他動詞の使役は能格項・与格項・絶対格項を取る複他動詞となる.

2.4. 強制使役と許可使役

「(遊びたがっている子供に無理やり) 母は子供をパンを買いに行かせた」

- (7) a. *Ama-k ume-a-ri ogi-a eros-a-te-ra[sic] joan-araz-i d-u.*
 mother-ERG child-SG-DAT bread-SG[ABS] buy-?-GER-ALL go-CAUS-PFV PRS.3[SG]ABS-TR[3SG.ERG]
- b. *Ama-k ume-a ogi-a eros-te-ra bidal-i d-u.*
 mother-ERG child-SG-DAT bread-SG[ABS] buy-GER-ALL send-PFV PRS.3[SG]ABS-TR[3SG.ERG]

「(遊びに行きたがっているのを見て) 母は子供に遊びに行かせた」

- (8) a. *Ama-k ume-a-ri jolas-te-ra joa-te-n utz-i d-i-o.*
 mother-ERG child-SG-DAT play-GER-ALL go-GER-LOC let-PFV PRS.3[SG]ABS-TR.DAT-3SG[3SG.ERG]
 「母は子供に遊びに行かせた」
- b. *Ama-k ume-a-ri jolas-te-n utz-i d-i-o.*
 mother-ERG child-SG-DAT play-GER-LOC let-PFV PRS.3[SG]ABS-TR.DAT-3SG[3SG.ERG]
 「母は子供に遊ばせた」

MI: 強制使役 (7a) では使役接辞-*araz* が用いられている. (7b) では単純使役動詞 *bidali* 「派遣する」が使われている. いっぽう, 許可使役 (8a-b) では使役動詞 *utzi* が用いられている. *utzi* の基本義は「置いておく, 残しておく」である. なお, コンサルタントに確認はできていないが, (7a) *erosatera* は明らかに *erostera* の誤りであろう.

2.5. 他動詞による表現と使役の違い

「私は弟に服を着せた」

- (9) *Ni-k arrop-a jarr-i d-i-o-t anai-a-ri.*
 1SG-ERG clothes-SG[ABS] put.on-PFV PRS.3[SG]ABS-TR.DAT-3SG-1SG.ERG brother-SG-DAT

「私は弟にその服を着させた」

- (10) *Ni-k arrop-a jarr-araz-i d-i-o-t anai-a-ri.*
 1SG-ERG clothes-SG[ABS] put.on-CAUS-PFV PRS.3[SG]ABS-TR.DAT-3SG-1SG.ERG brother-SG-DAT

C: (9) は「直接手を下して着せる」を表し, (10) は「弟が命令され着る」ことを表す.

MI: (9) の単純他動詞 *jarr* 「着せる」と (10) の分析的表現 *jarrarazi* 「着させる」の意味的対立が見られる.

2.6. (物の) 授受動詞

「私は弟にその本をあげた」

- (11) *Ni-k anai-a-ri liburu hori eman n-i-o-n.*
 1SG-ERG brother-SG-DAT book that(MED)[SG.ABS] give-PFV NPRS.3[SG]ABS.1SG.ERG-TR.DAT-3SG-PST

2.7. 恩恵の授受

「私は弟に本を読んであげた」

- (12) *Ni-k anai-a-ri liburu hori irakurr-i n-i-o-n*
 1SG-ERG brother-SG-DAT book that(MED)[SG.ABS] read-PFV NPRS.3[SG]ABS.1SG.ERG-TR.DAT-3SG-PST

「兄は私に本を読んでもくれた」

- (13) *Anai-a-k (ni-ri) liburu hori irakurr-i z-i-da-n.*
 brother-SG-ERG (1SG-DAT) book that(MED)[SG.ABS] read-PFV PST.3[SG]ABS.3[SG]ERG-TR.DAT-1SG-PST

「私は母に髪を切ってもらった」

- (14) *Ama-k ile-a moz-tu z-i-da-n.*
 mother-ERG hair-SG[ABS] cut-PFV PST.3[SG]ABS.3[SG]ERG-TR.DAT-1SG-PST
 「母が私の髪を切った」

MI: (11) の物の授与動詞 *eman* は, (12–14) の恩恵の授与には用いられていない. (12–13) では音読の聞き手 (弟・私) が与格で表現されている. 恩恵の授与は直接表現されているとは言えない. (14) では, 髪を持ち主 (私) が与格で表現される名詞句外所有構文となっている. *moztu* 「切る」の与格項となっているという点で, 受益者を表していると言えるかもしれない.

2.8. 再帰

「私は (自分の) 体を洗った」

- (15) a. *Gorputz-a garbi-tu n-u-en.*
 body-SG[ABS] clean-PFV NPRS.3[SG]ABS.1SG.ERG-TR-PST
 b. *Ni-re buru-a garbi-tu n-u-en.*
 1SG-PGEN self-SG[ABS] clean-PFV NPRS.3[SG]ABS.1SG.ERG-TR-PST

「私は手を洗った」

- (16) (*Ni-k*) *Esku-ak garbi-tu n-it-u-en.*
 (1SG-ERG) hand-PL[ABS] clean-PFV NPRS.3.ABS.1SG.ERG-PL.ABS-TR-PST

「彼は手を洗った」

- (22) a. *Pelikula horr-ekin negar egi-ten da.*
 movie that(MED)SG-COM tear[ABS] be.done-IPFV PRS.3[SG]ABS.INTR
 b. *Pelikula horr-ek negar egin-araz-ten d-i-zu.*
 movie that(MED)SG-ERG tear[ABS] do-CAUS-IPFV PRS.3[SG]ABS-TR.DAT-2SG[3SG.ERG]

MI: (22a) では他動詞 *egin* 「(泣きを) する」が脱他動化され、「一般にその映画を見ると人は泣く」という意味が表されている。脱他動化については Ishizuka (2018) を参照。(22b) では総称の二人称によって「一般にその映画は人を泣かせる」という表現になっている。

2.13. 意志／無意志

「私は卵を割った」

- (23) (*Ni-k*) *Arrautz-a kraska-tu d-u-t.*
 (1SG-ERG) egg-SG[ABS] crack-PFV PRS.3[SG]ABS-TR-1SG.ERG

「(うっかり落として) 私はコップを割った／割ってしまった」

- (24) (*Ni-ri*) *Edalontzi-a apur-tu zai-t.*
 (1SG-DAT) glass-SG[ABS] break-PFV PRS.3[SG]ABS.INTR.DAT-1SG

MI: 意志的な行為である (23) では他動詞が、無意志的行為の (24) では自動詞が用いられている。(24) では行為主体は与格で表現されている。

2.14. 随意の不可能と不随意の不可能

「きのう私はコーヒーを飲みすぎて (飲みすぎたので) 眠れなかった」

- (25) *Atzo kafe gehi-egi edan n-u-en*
 yesterday coffee much-EXC drink.PFV NPRS.3[SG]ABS.1SG.ERG-TR-PST
eta ezin izan n-u-en lo-rik egin.
 and NEG.POT TR.PFV NPRS.3[SG]ABS.1SG.ERG-TR-PST sleep-PRT do.INF

「きのう私は仕事がたくさんあって (たくさんあったので) 眠れなかった」

- (26) *Atzo lan asko izan n-u-en*
 yesterday work much[ABS] have.PFV NPRS.3[SG]ABS.1SG.ERG-TR-PST
eta ezin izan n-u-en lo-rik egin.
 and NEG.POT TR.PFV NPRS.3[SG]ABS.1SG.ERG-TR-PST sleep-PRT do.INF

MI: いずれも不可能の表現 *ezin* によって *lo egin* 「眠る (眠りをする)」が否定されている。

2.15. 全体と部分・主体・一時的

「私は頭が痛い」

- (27) *Buru-ko min-a d-u-t.*
 head[SG]-LGEN ache-SG[ABS] PRS.3[SG]ABS-have-1SG.ERG

MI: 「頭痛を持っている」式の所有表現である。

2.16. 全体と部分・主体・恒常的

「彼女は髪が長い」

- (28) a. (*Har-k ile luze-a d-u.*)
 (that(DIST)SG-ERG) hair long-SG[ABS] PRS.3[SG]ABS-have[3SG.ERG]
 b. (*Har-k ile-a luze-a d-u.*)
 (that(DIST)SG-ERG) hair-SG[ABS] long-SG[ABS] PRS.3[SG]ABS-have[3SG.ERG]

C: (28a) は「彼女は長い髪の毛を持っている」、(28b) は「彼女の髪の毛が長い」。

MI: (28a) は (27) と同様の所有表現だが, (28b) は石塚 (2022) が所有コピュラ文と呼ぶ特別な構造である。ilea「髪」が所有動詞の目的語で, luzea「長い」はその目的語に対する二次述語になっている。なお, 恒常的な関係を表す所有コピュラ文は, 他の所有物との対比があると言いやすくなる。たとえば, (28b) は「彼女は髪は長い」のような日本語に対応する。

2.17. 全体と部分・対象

「彼は (別の) 彼の肩をたたいた」

- (29) *Har-k (beste-a-ri) sorbald-a kolpa-tu z-i-o-n.*
 that(DIST)SG-ERG (other-SG-DAT) shoulder-SG[ABS] beat.up-PFV PST.3[SG]ABS-TR.DAT-3SG-[3SG.ERG]PST

「彼は (別の) 彼の腕をつかんだ」

- (30) a. *Har-k (beste-a-ri) beso-a euts-i z-i-o-n.*
 that(DIST)SG-ERG (other-SG-DAT) arm-SG[ABS] seize-PFV PST.3[SG]ABS-TR.DAT-3SG-[3SG.ERG]PST
 b. *Har-k (beste-a) beso-tik euts-i z-u-en.*
 that(DIST)SG-ERG (other-SG[ABS]) arm[SG]-ABL seize-PFV PST.3[SG]ABS-TR-[3SG.ERG]PST

MI: (29–30b) すべて, 働きかけられる身体部位の持ち主は動詞の直接の項として表現されている。(29–30a) では, 持ち主は与格項, 身体部位は絶対格項である。(30b) では持ち主が絶対格項, 身体部位は奪格名詞句である。

2.18. 知覚構文

「私は彼がやって来るのを見た」

- (31) a. *Ni-k hura ze-torr-ela ikus-i n-u-en.*
 1SG-ERG that(DIST)SG.ABS PST.3[SG]ABS-come-COMPsee-PFV NPRS.3[SG]ABS.1SG.ERG-TR-PST
 b. *Ni-k hura etor-tze-n ikus-i n-u-en.*
 1SG-ERG that(DIST)SG.ABS come-GER-LOC see-PFV NPRS.3[SG]ABS.1SG.ERG-TR-PST

「私は彼が今日来ることを知っている」

- (32) *Ni-k ba=da-ki-t hura gaur da-torr-ela.*
 1SG-ERG AFF=PRS.3[SG]ABS-know-1SG.ERG that(DIST)SG.ABS today PRS.3[SG]ABS-come-COMP

C: (31a) は「やってる来ることを」、(31b) は「やってくる姿を、やってくる方法など」。

MI: (31a, 32) は補文節を取る完全な複文である。(31b) は動名詞句の位置格形を用いたコントロール構文で、動名詞句の主語は明示されず、上位節の項と同一指示と解釈される。(31a) は実際に姿を見ていなくても成立する（やって来るという事実を視覚によって認識したという意味）。

2.19. 引用文中の再帰

「彼は自分（のほう）が勝つと思った」

- (33) (*Har-k*) *Ber-a-k irabaz-i-ko z-u-ela*
 (that(DIST)SG-ERG) 3-SG-ERG win-INF-FUT PST.3[SG]ABS-TR[3SG.ERG]-COMP
uste z-u-en.
 thought[ABS] PST.3[SG]ABS-have-[3SG.ERG]PST

MI: 補文節中に三人称名詞 *bera* が用いられた複文構造である。

2.20. 部分的に及ぶ動作と全体に及ぶ動作

「私は（コップの）水（の一部）を飲んだ」

- (34) a. *Ur-a edan d-u-t edalontzi-tik.*
 water-SG[ABS] drink.PFV PRS.3[SG]ABS-TR-1SG.ERG glass[SG]-ABL
 「私はコップから水を飲んだ」
 b. *Edalontzi-tik ur pixka bat edan d-u-t.*
 glass[SG]-ABL water bit one[ABS] drink.PFV PRS.3[SG]ABS-TR-1SG.ERG
 「私はコップから水を少し飲んだ」

「私は（コップの）水を全部飲んだ」

- (35) (*Ni-k*) *edalontzi-ko ur guzti-a edan dut.*
 (1SG-ERG) glass[SG]-LGEN water all-SG[ABS] drink.PFV PRS.3[SG]ABS-TR-1SG.ERG

MI: (34a) の名詞句 *ura* は定性にかかわらず一定量の水を表す。(34b) では数量句 *pixka bat* によって量が限定されている。(35) では形容詞 *guzti* 「すべて」が用いられている。なお、(36) のように、*jan* 「食べる」などの不定目的語削除が可能な動詞では、奪格名詞句を使って、指示対象の一部が動詞の表す行為

の対象であることを表すことができる. (de Rijk 2008: 266f.).

- (36) *Gu-re ogi-tik ja-ten d-u.*
 1PL-PGEN bread[SG]-ABL eat-IPFV PRS.3[SG]ABS-TR[3SG.ERG]
 「彼は私たちのパンを一部食べる」

2.21. 恒常的な否定文

「彼は肉を食べない」

- (37) *Har-k ez d-u-t[sic] haragi-rik ja-ten.*
 that(DIST)SG-ERG NEG PRS.3[SG]ABS-TR-1SG.ERG meat-PRT eat-IPFV

MI: 目的語に分格名詞句が用いられている. 否定文では, 不定の絶対格名詞句に相当する位置に分格名詞句が現れる.

2.22. 感覚述語

「今日は寒い」

- (38) *Gaur hotz-a egi-ten d-u.*
 today cold-SG[ABS] do-IPFV PRS.3[SG]ABS-TR[3SG.ERG]

「私は (何だか) 寒い (私には寒く感じる)」

- (39) *Hotz na-iz.*
 cold PRS.1SG.ABS-be

C: (38) はスペイン語のような天気表現で, 「寒さをする」ということ.

MI: (38) は非人称他動詞 *egin* が使われており, *hotza* 「寒さ」は目的語である. *egin* は他に *euria* 「雨」, *elurra* 「雪」, *beroa* 「暑さ」などを目的語に取る. (39) では感覚主体 (私) は絶対格項であり, 全体としてはコピュラ文である.

2.23. 感情述語

「人がとても多かったことに私は驚いた」

- (40) *Harri-tu nind-u-en hainbeste jende ego-te-a-k.*
 surprise-PFV NPRS.1SG.ABS-TR[3SG.ERG]-PST so.many people[ABS] be.there-GER-SG-ERG

MI: 感情主体 (私) を目的語, 刺激を主語とする他動詞文であり, *harritu* 「驚かせる」が用いられている. なお, *harritu* には自動詞用法 「驚く」もある.

2.24. 現象文・現場での直接体験

「雨が降り始めた」

- (41) a. *Euri-a has-i d-u.*
rain-SG[ABS] start-PFV PRS.3[SG]ABS-TR[3SG.ERG]
b. *Euri-a egi-te-n has-i da.*
rain-SG[ABS] do-GER-LOC start-PFV PRS.3[SG]ABS.INTR

MI: (41a) は非人称他動詞 *hasi* 「(天候が) 変わり始める」, (41b) では一般のアスペクト自動詞 *hasi* 「始まる」が用いられている。

2.25. 中間構文

「この本はよく売れる」

- (42) *Liburu hon-ek asko sal-tzen du.*
book this.SG-ERG very.much sell-IPFV PRS.3[SG]ABS-TR[3SG.ERG]

MI: *saldu* 「売る」は通常他動詞だが, ここでは「売れる」という意味の非能格自動詞として用いられている。バスク語の非能格自動詞は, 能格項のみを取る一項動詞である。*saldu* 「売れる」の用法はスペイン語の *vender* 「売れる」と対応する。このような場合に非能格自動詞となることは福井 (2016) を参照。なお, フランス側方言では以下のように非対格自動詞 (絶対格項のみを取る一項動詞) になる。

- (43) *Liburu hau ongi sal-tzen da.*
book this[SG.ABS] well sell-IPFV PRS.3[SG]ABS.INTR

参考文献

- de Rijk, Rudolf P. G. 2006. *Standard Basque: a progressive grammar*. Cambridge, MA: The MIT Press.
福井夏来. 2016. 「バスク語の自動詞文における能格の出現条件について」『思言 東京外国語大学記述言語学論集』12: 161–168.
Ishizuka, Masayuki. 2018. Detransitivization of productive causative verbs in Basque. *Bulletin of the Edward Sapir Society of Japan* 32: 31–41.
石塚政行. 2022. 「変則的二項述語文としての所有文: バスク語の所有コピュラ文」『日本エドワード・サピア協会研究年報』36: 27–39.

執筆者連絡先: ishizuka@go.tuat.ac.jp, yoshinari.kanae.t0@tufs.ac.jp

原稿受理: 2023年12月17日